

第8回

下水道管路の包括的民間委託検討部会

説明資料

令和4年5月30日

本日の目的

検討部会での審議を踏まえて導入した

包括的民間委託の実施状況を報告し

今後の中大口径管の調査に向けた

ご意見をいただきたい

- 1 包括的民間委託の実施状況と振り返り
- 2 今後の中大口径管の調査に向けた論点整理

審議項目1

包括的民間委託の実施状況と振り返り

提案書の評価を踏まえた受託者の選定

▶受託者の選定方式

民間企業のノウハウ・アイデアを活用できる選定方式を選定

受託者選定方式の特徴※

方式 特徴	一般 競争入札	指名 競争入札	総合評価 一般競争入札	公募型 プロポーザル
費用重視※				
技術能力※ 重視				
契約までの 期間				
技術提案※	無	無	有	有

※出典：下水道管路施設の管理業務における包括的民間委託導入ガイドラインを一部修正

包括委託導入検討時に期待していた内容

包括的民間委託の導入

一連の業務を複数年度でのパッケージ化による
今まで以上の迅速かつ適切な対応

受託者の裁量が増加→自由度が高く、迅速・確実な業務遂行

管理業務の一層の効率化

監督から共有した情報について、JV内の伝達が素早く、正確

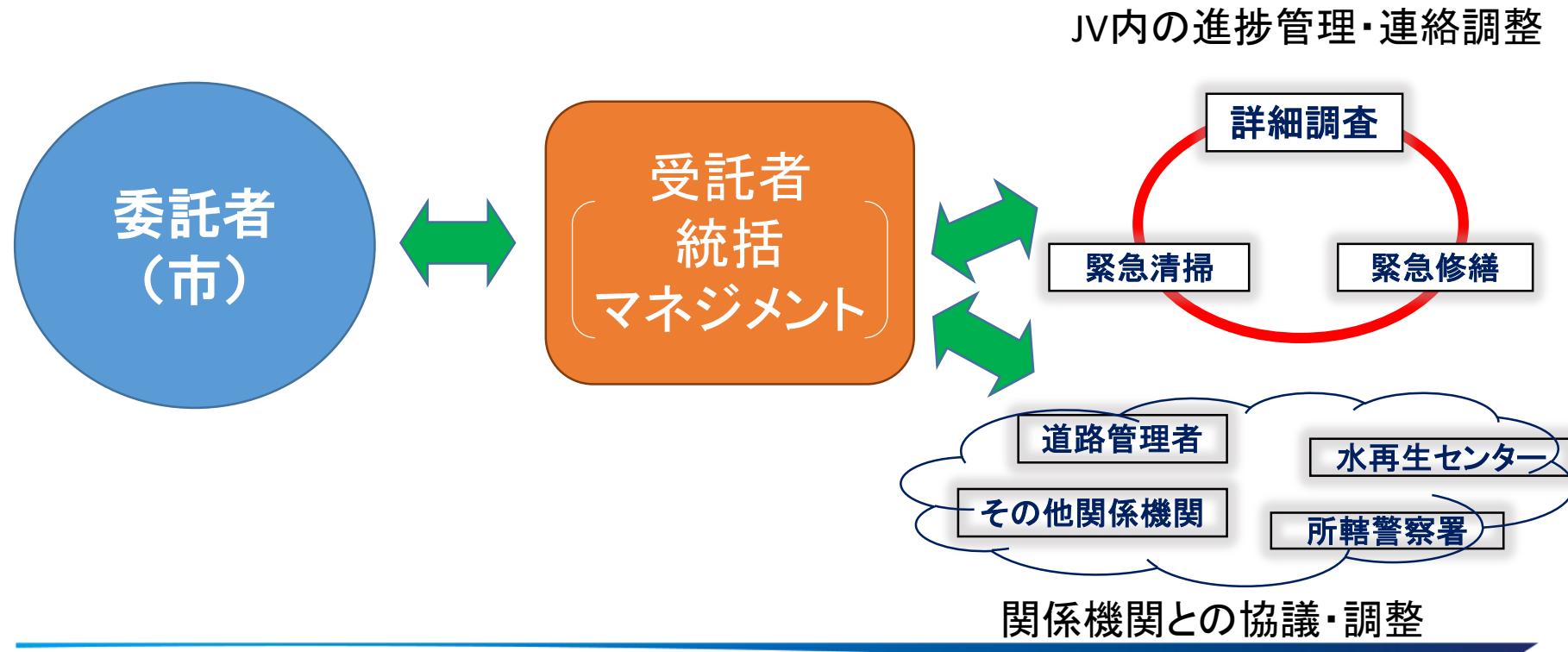
民間事業者のノウハウやアイデア・創意工夫の活用

新技術の活用による立入困難箇所へ作業不可能箇所の削減

提案書の評価を踏まえた業務実施状況

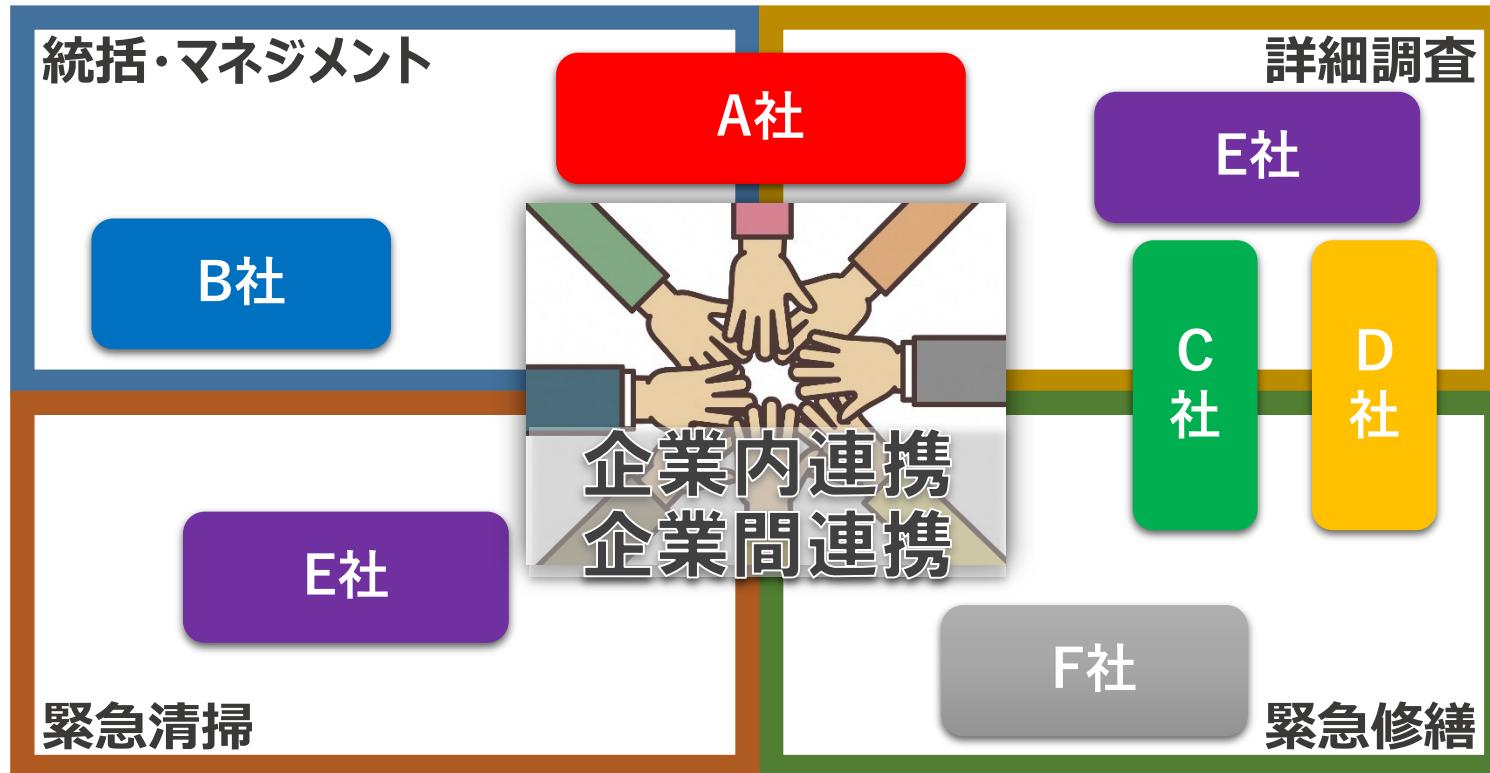
- ▶本市職員との連絡を確実・迅速に実施する体制
→明確な役割分担と確実な連絡体制（迅速性）

統括マネジメント業務を起点とした実施体制（ワンストップ）



提案書の評価を踏まえた業務実施状況

➤受託者（JV）体制



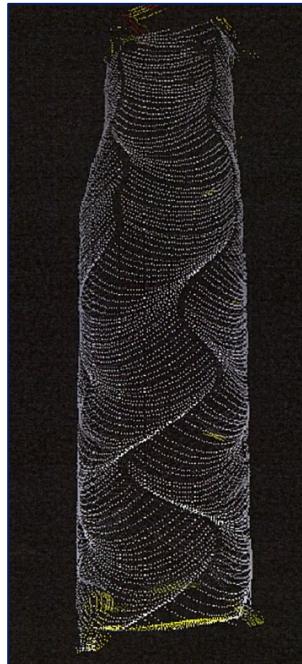
多くの構成企業が複数の業務を担うことができるため、詳細調査から緊急対応までスムーズに実施できている

提案書の評価を踏まえた業務実施状況

➤最新技術を取り入れた先進的な取組

→作業困難箇所への対応（確実性）

レーザースキャニングシステム
によるマンホール調査



無人清掃機による清掃作業



清掃前



清掃後

提案書の評価を踏まえた業務実施状況

- 地域住民への理解促進と市職員の技術力向上の取組
→ 下水道の見せる化の推進と見学会の開催（拡張性）

調査状況の映像をモニタで再生して事業PR



市職員を対象とした見学会の開催



一年間の業務実施状況

▶過去3年間との比較（詳細調査）

過去3年間の調査延長
(委託件数約10件/年)

平均139km/年

内訳

平成30年度(委託10件) 123km

令和元年度(委託11件) 149km

令和2年度(委託13件) 144km

包括初年度の調査延長
(委託2件)

181km/年 (令和3年度実績)

内訳

詳細調査(北部) 91.5km

詳細調査(南部) 88.7km

緊急調査(北部) 1.6km

緊急調査(南部) 0.1km

詳細調査の早期完了の実現に向けて順調なスタート
(公募プロポの提案内容)

一年間の業務実施状況

▶過去3年間との比較（異常箇所）

過去3年間の異常箇所数 (H30～R2)

年間209箇所
(628箇所/3年)

R5年度に対応完了予定
(全て本市で対応)

包括初年度の異常箇所数

年間171箇所

うち本市対応箇所
3箇所※/171箇所

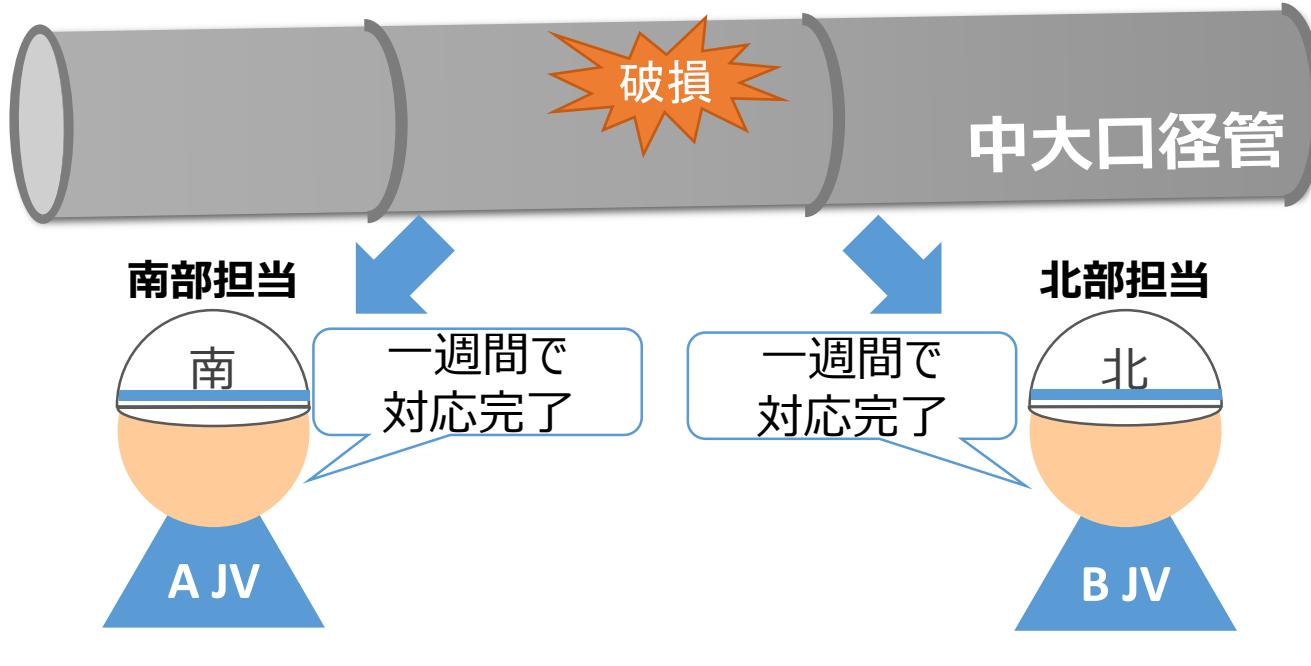
※他168箇所は包括JVが対応
最短同日で調査から修繕まで完了

- ・委託内で見つけた異常箇所の大部分は包括JVが対応
→本市の業務軽減と対応のスピードアップを実現

一年間の業務実施状況

▶同一体制での業務実施状況

- ・維持管理サービスの均質性

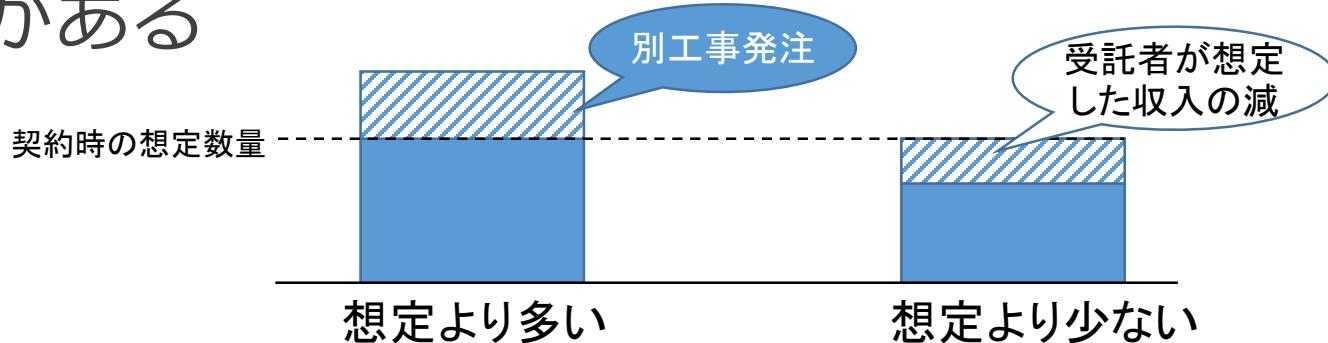


現在は南北同一体制

市全域で同一レベルの
サービス提供を実現

一年間作業を実施した運用上の課題(参考)

- 緊急業務における想定と実際の業務量との乖離が発生する可能性がある



- 委託者、受託者間の進捗管理の透明性確保
- 委託毎に責任者が一人ずつのため、連絡がつかないことがある

明らかとなつた課題の解消に向け、引き続き検討

振り返りのまとめ

- ・市が期待していた内容を
十分に理解した体制・提案内容
- ・包括的民間委託を活用した
中大口径管の維持管理は
適切に実施できていると考えている

審議項目2

今後の中大口径管の調査に向けた論点整理

包括的民間委託の業務内容

項目	今期包括委託
委託期間	3年
履行場所	北部／南部 (2件)
対象業務	<ul style="list-style-type: none">➤ 詳細調査（計画・緊急）➤ 緊急修繕➤ 緊急清掃➤ 統括・マネジメント
対象施設	<ul style="list-style-type: none">➤ 中大口径本管（H29年度時点で30年以上経過したものが対象）➤ 接続人孔及び接続取付管
受託者選定方法	公募型プロポーザル方式

論点の整理

➤委託期間

詳細調査 計画期間（対象1500km/10年）

H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11 R12 ...

個別発注期間※

※単年度で実施

今期包括委託

次期調査

2周目調査

- ・中大口径管について、引き続き状態把握を実施
- ・今期包括委託終了後、4年間で中大口径管の状態把握が完了

論点の整理

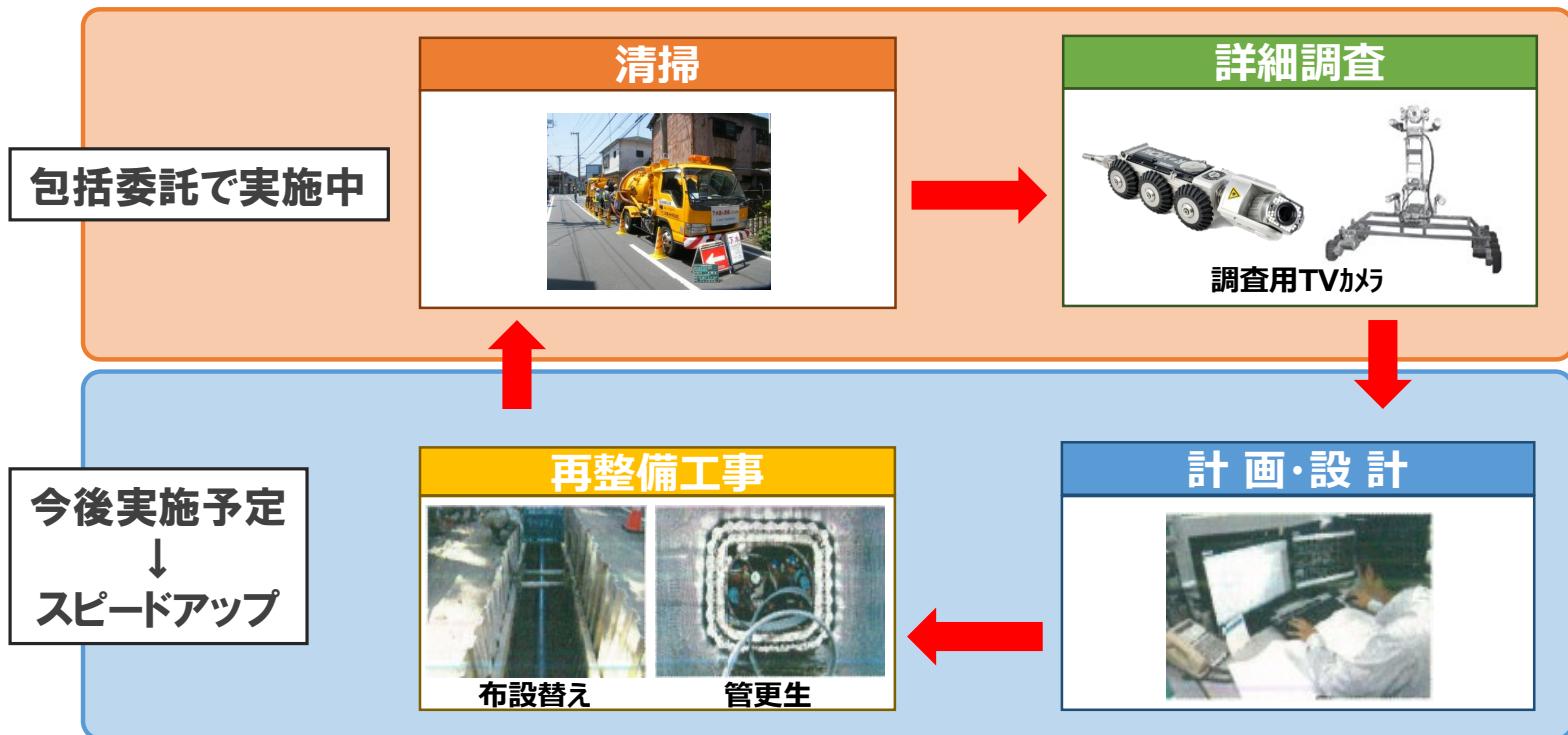
➤下水管路施設の課題

① 急速に進行する老朽化への対応

② 激甚化する豪雨への対応

① 急速に進行する老朽化への対応

- ・中大口径管の「再整備」（改築）のスピードアップ



論点の整理

➤下水管路施設の課題

② 激甚化する豪雨への対応

激甚化する豪雨への備えに万全を期すためには、

計画的な雨水排除・貯留施設の整備（能力強化）

既存の雨水排除・貯留施設の維持管理（能力発揮）

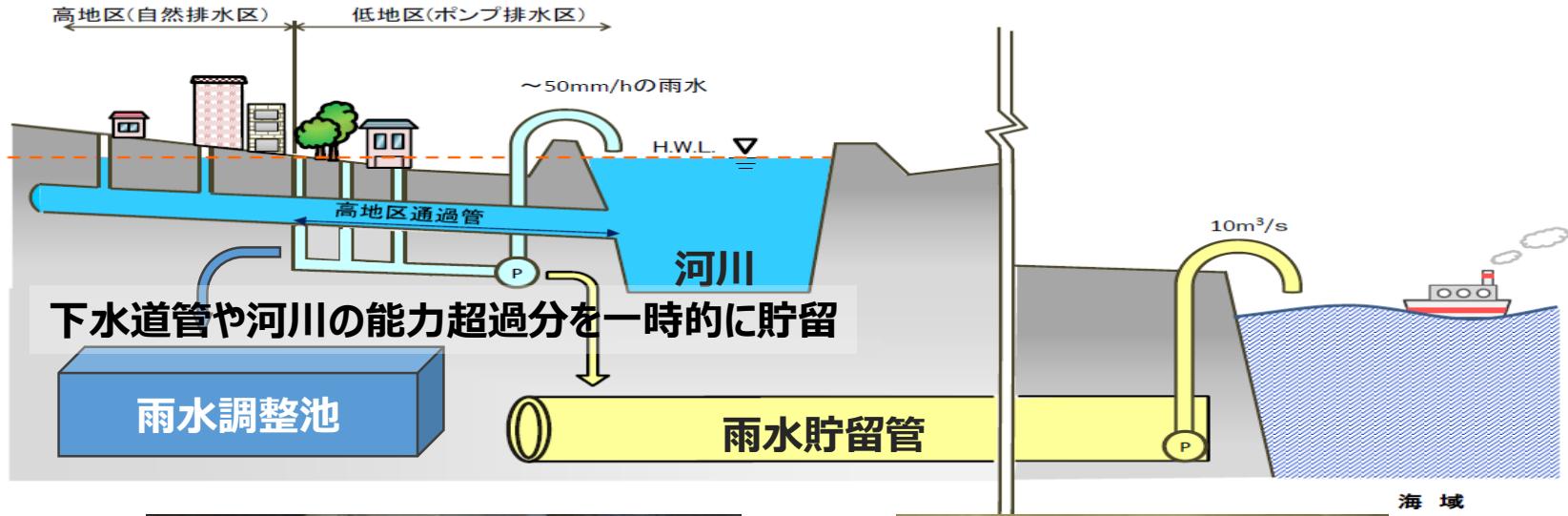
が不可欠

論点の整理

➤下水管路施設における新たな課題への対応

② 激甚化する豪雨への対応 (施設例)

雨水調整池・雨水貯留管

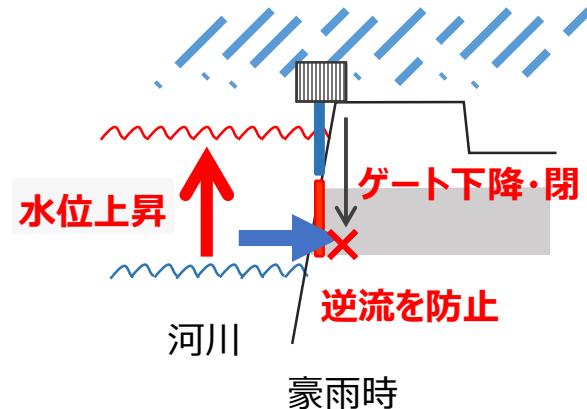
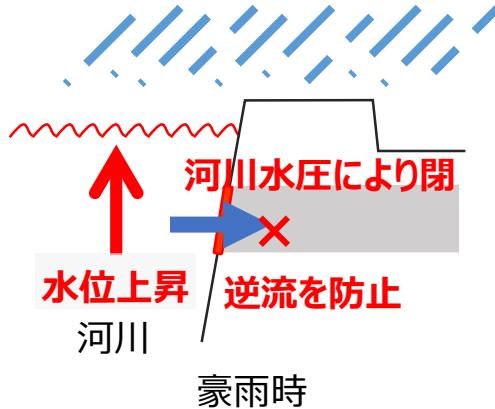
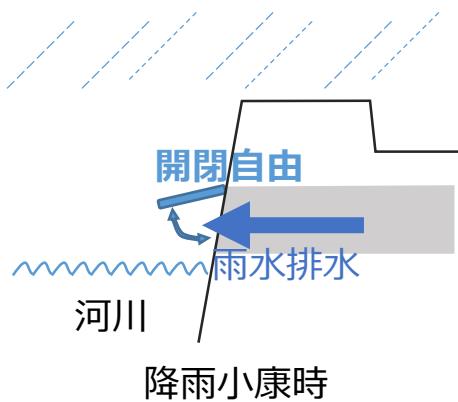


論点の整理

➤下水管路施設における新たな課題への対応

② 激甚化する豪雨への対応 (施設例)

樋門



今後の進め方

日時	審議内容
秋頃	今後の中大口径管調査の進め方について